

オセアニア 歴史遺産守れ

相原市在住のオセアニア考古学者で、クラウド大(ニュージールランド)の名誉研究員、長岡拓也さん(46)が、歴史遺産の保護などに取り組むNPO法人「パシフィカルネサンス」を設立した。伝統技術の保存や口頭伝承の記録などで現地政府を支援し、オセアニア文化の保存と振興を図る。(楊林修)



クラウド大(ニュージールランド)の名誉研究員、長岡拓也さん(46)が、歴史遺産の保護などに取り組むNPO法人「パシフィカルネサンス」を設立した。

相原の考古学者NPO 口頭伝承を記録

オセアニアの島々はボリネシア、メラネシア、ミクロネシアなどからなり、出土する石神が、東京・小笠原諸島などの石神と似ている。日本語にオセアニア言が入っているとの説があるほか、ミクロネシアは日本の統治下にあった時代もあり、関係は深い。

近年は急激なグローバル化で生活が大きく変化し、伝統文化や技術が衰退している。長い間文字がなかったため情報は口伝えだった。それが、それを記録し、継承する機運も整っていない。ミクロネシアの巨石を積んだ大小の人工島でつくられた16世紀の海上都市、ナン・マドルル遺跡では、文化庁や東京・奈良両文化財研究所が遺跡保護と世界遺産登録に向けて協力し、調査などを行っているが、海侵や植物の繁茂で崩壊の危機に直面。数十年前に出土した遺物が、インターネットで販売されていたことも判明している。



巨石を積み上げた城郭のない海上都市、ナン・マドルル遺跡。いずれも長岡さんが提供。

長岡さんは広島大で考古学を学び、卒業後に青年海外協力隊員として3年間、ミクロネシア連邦政府で勤務。博物館の開設を手伝い、機織りや舞踊といった伝統技術や文化、口頭伝承の記録、発掘調査などに取り組んだ。

現在は、これらの活動を支える会員を募集している。年会費(1口)は正会員が5000円、資金援助をする賛助会員5000円、法人会員2万円。問い合わせや申し込みは、メールでNPO法人パシフィカルネサンス(Pacificare.research.ance@gmail.com)へ。

長岡さんが代表理事、文化人類学者らが役員や顧問に就任。オセアニアの伝統文化や歴史を記録し、調査し、現地の教育にも活用する。昨年末からミクロネシア連邦政府を支援する活動を始めたフェイスブックで紹介。ナン・マドルル遺跡の世界遺産登録に向けた推薦書提出にも協力した。

日本との交流も促進し、伝統工芸品を商品化するなど観光産業の振興を図って、オセアニア地域の経済発展にもつなげたい考えだ。

オセアニアの現状に長岡

さん(日本と関連の深い貴重な伝統文化や技術、遺産が失われかねない)と危機感を募らせ、昨年9月にNPO法人を設立した。